



～2025-26年度主題～

- 国際会長 エドワード・オン (SG) “Faith, Love, Action”
- アジア太平洋地域会長 田上 正 (熊本むさしC) “信念と愛をもって行動しよう！”
- 東日本区理事 山下 真 (十勝C) “ワイズらしさ再発見”
- かながわ部長 兵藤 芳朗 (鎌倉C) “共に歩み 交流を深め、部の「絆」を強めよう”
- クラブ会長 坂口 直樹 “お互いを理解し誰かの役に立つ！”

今月の聖句

わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。

(ヨハネによる福音書 第15章12節)

3月の本例会

日時 3月27日(金)17:30～

場所 夢Café (変更にご注意)

司会 今城宏子、記録 森山真治

～議事～

1. 開会点鐘 会長
2. ワイズソング・信条唱和 全員
3. 今月の聖句・祈祷 担当主事
4. 会長挨拶 会長

※食事をしながら会を進めます

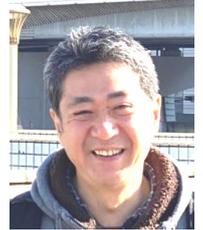
5. 自由討論
つづきクラブの課題と今後の方針
6. 行事予定・諸日程
7. 各種報告
 - ① 横浜YMCA
 - ② かながわ部
 - ③ 東日本区
 - ④ その他
8. Happy Birthday
・辻 孝子さん(3/31)
9. スマイル・アピール
10. 閉会点鐘 会長

《巻頭メッセージ》

平和への祈りと歩みを重ねて

山添 訓

厳しい寒さがようやく和らぎ、柔らかな日差しと共に花の蕾が膨らむ季節となりました。新しい命の息吹を感じる3月。この時期は、新しい旅立ちへの希望が膨らむ一方で、私たちが「命の尊厳」と「真の平和」について、改めて深く思いを馳せるべき大切な節目でもあります。



振り返れば、私たちの日常は常に自然の驚異や社会の激動と共にありました。東日本大震災から15年、そして能登半島地震から2年。被災地で一歩ずつ復興が進む力強い歩みに勇気をもらう一方で、今なお仮設住宅での生活を余儀なくされている方々や、愛する場所を失った悲しみを抱え続けている方々がおられる現実、私たちは真摯に向き合わなければなりません。また、近年顕著となっている気候変動の影響は、かつての豊かな四季を「二季」とさえ感じさせるほどに変容させてしまいました。猛暑や豪雨といった異常気象は、もはや他人事ではなく、私たちの生存を脅かす共通の課題となっています。

さらに目を世界へ向ければ、依然として各地で紛争が続き、多くの命が不条理に奪われています。情報の波の中で、私たちは時に無力感に苛まれることもあります。しかし、平和とは単に武器を置くことだけを指すものではありません。誰もが飢えることなく、安心して眠りにつき、未来に希望を描くことができる状態。それこそが私たちが求める平和の姿ではないでしょうか。

横浜YMCAでは、持続可能な社会を目指すSDGsの取り組みを継続しています。再生可能エネルギーへの転換や海洋プラスチック問題への啓発、そしてマイボトルの利用といった日々の小さな実践。一見、平和とは遠いことのように思えるかもしれませんが、地球という「共通の家」を慈しむ心は、他者を思いやる心と地続きです。エスカレーターではなく階段を使う、エコバッグを携える。そうした一人ひとりのささやかな選択が、めぐりめぐって遠い国の誰かの、あるいはまだ見ぬ次世代の平和を守る礎になると信じています。

今年も年度の締めくくりを迎え、月日が流れる早さを実感しております。今、私たちがこうして仕事を与えられ、健康に支えられて活動できていることに、神様の守りを感じ、深く感謝いたします。混乱の続く時代だからこそ、私たちは「平和を尋ね、追い求める」姿勢を続けることが大切に思います。身近な対話を大切に、分断ではなく連帯を、不信ではなく信頼を選び取っていく。その歩みこそが、暗闇の中に光を灯す唯一の道だと確信しています。

新しい季節、皆さまと共に、この地から平和の種をまき続けていきたいと思えます。最後に、平和への切なる希望を込めて、聖書の言葉を記します。

「慈しみとまことは出会い、正義と平和は口づけし

まことは地から萌えいで正義は天からそそがれます。」

(詩編 85編11～12節)

クラブ役員一覧

- 会長 坂口 直樹
- 副会長 今城 高之
- 書記 今城 宏子
- 会計 鈴木 茂
- 直前会長 鈴木 茂
- 監事 辻 剛

2月のデータ

例会出席	11名	在籍会員数	16名
メンバー	9名	月間出席者数	9名
ビジター	—	メ-キップ	1名
ゲスト	2名	月間出席率	62%

“To acknowledge the duty that accompanies every right”

《例会報告》

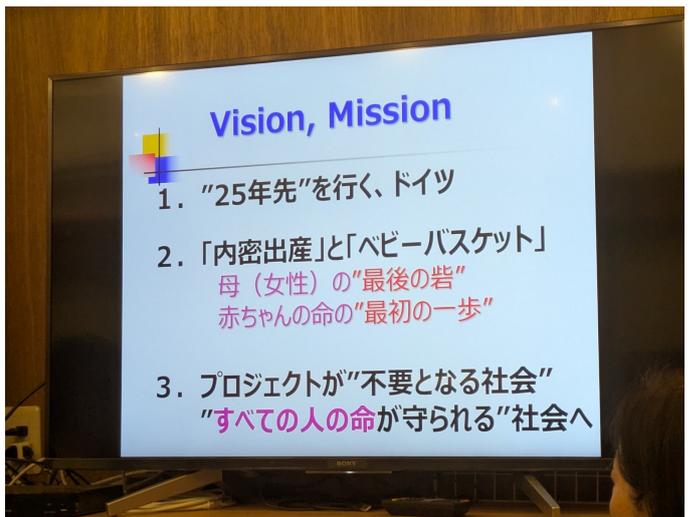
2026年2月度本例会

今城高之 記

日時 2月27日(金)17:30~19:20
 場所 夢Café
 出席 今城H・T、エスキルドセン、坂口、鈴木K・S
 辻T・Ts、三木、(Zoom)大野、森山
 (ゲスト)大江 浩さん(卓話者)
 (ビジター)久米康子さん、中村順子さん
 藤井千枝子さん
 司会:坂口、記録:今城T

～議事～

1. 開会点鐘 会長
2. ワイズソング・信条唱和 一同
3. 今月の聖句・祈祷
 コロサイの信徒への手紙 4章2節
 - 発熱のため自宅よりZoom参加の森山担当主事が聖書朗読、感話に引き続き開会の祈祷をささげた。
 - ピンクシャツデーのイベントとして、YMCAでは子どもたちが思いをシールに書いて張り付けることを行った。多くがいじめに対するもの。「やられてもやり返さない」「助ける、止める、やめる」などが記憶に残ったもの。
 - ピンクシャツデーを「キャンペーン」といった一時的なものとしてではなく「日々の積み重ね」的な運動としてとらえることが必要。
4. 卓話 卓話者:賛育会「赤ちゃんの命を守るプロジェクト」事務局長 大江 浩さん
 - 大江さんは、大学卒業後、神戸YMCAを皮切りに、YMCA及びその関連機関に奉職され、現在の賛育会まで31年間のキャリアのほとんどを医療・福祉関係の分野に携わってこられた。
 - 賛育会がこのプロジェクトを始めた理由は①「妊娠したかもSOS」として ②「内密出産」と「ベビーバスケット」(匿名の赤ちゃんの受け入れ) ③社会のセーフティーネット、命のネットワークとしてが挙げられる。
 - このような活動の必要性は多くの医療・福祉関係者の理解を得てはいるが、実際に運営されているケースは熊本の病院と賛育会の二か所のみ。様々なネガティブ要素があり、必要性の認識はあるが実行されない。
 - 本会の卓話が扱う内容は極めて重く、重要であり、本稿で再現するのは不可能と判断されるので、ご関心の向きは、「賛育会」のWEBサイトにコンタクトするなどして情報を集めていただきますようお願いいたします。
 - 我々のできることにについての問いに大江さんの返答は①多くの人々にこのプログラムの内容を伝えること ②経済的支援(寄付活動)を行うこと でした。皆様のご協力をお願いします。
 - なお、大江さんの卓話のレジメを以下に収録したのでご覧ください。
5. 時間の制約から、若干の質疑の後閉会点鐘をもって例会を閉会し、ピンクシャツデーの記念撮影の後、ゲスト、ビジターも参加して懇親会食会を行った。



一同ピンクをまとっての“ピンクシャツデー”例会

[ベビーバスケットについて | 赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト](#)

WEBサイト

“To acknowledge the duty that accompanies every right”

《会議報告》

第109回YMCA-Y's協議会報告

坂口直樹 記

日時2026年3月3日(火) 19:00~20:00

会場:横浜中央YMCA 6階606号室

司会:金澤八景クラブ担当(大村悠、雲走和孝担当主事)

当クラブ出席者:坂口(会長)、今城(副会長・部国際・交流事業主査)、鈴木(監事)

開会礼拝

雲走担当主事により黙禱と開会祈禱が持たれた。

聖書:テサロニケの信徒への手紙II 2章17節

・以下、大村八景クラブ会長の司会により議事が進行した。

挨拶

佐竹総主事(横浜YMCA)

YMCAとワイズ双方の顔が見える特別な会議であり、他地域では実施されていない本会議を継続していくことが重要であるとの挨拶があった。

兵藤部長(かながわ部)

ウクライナ紛争開始から4年が経過し、ガザやイランを含む世界情勢の変化に心を痛めている。YMCAおよびワイズメンズクラブの掲げる国際協調・協力の理念をさらに広げていきたいとの発言があった。

協議

・国際・地域協力募金報告(YMCA柳原絵里子)

本年度の会計状況および募金の使途について報告があった。

2月末現在、目標800万円に対し約730万円(達成率91.3%)の募金実績である。また、タイ国タンタワン奨学金(目標額300万円)の中間報告および現地との双方向コミュニケーションの状況についても報告があった。タンタワン奨学金は、タイ・バンコクYMCAパヤオセンターの卒業生のうち、大学進学を志す生徒を支援するため、2009年に開始された制度である。卒業生は大学へ進学し、教員、NGO職員、地域リーダー等として社会で活躍している。

※「タンタワン」はタイ語で「ひまわり(ดอกทานตะวัน)」の意。

報告(敬称略)

- ・かながわ部新体制について(兵藤部長)
(資料ご参照)当クラブ関係は、部書記:坂口、国際・交流主査:今城、部監事:鈴木
- ・Y-Y's合同新年会(部会計 古田)
1月17日廣東飯店において、山下真東日本区理事はじめ多くのゲストを含め総勢46名の参加を得て盛会のうちに終了した。
- ・横浜YMCA会員大会ピースフォーラム(古賀、鈴木監事)
鈴木監事より資料に基づき開催報告があった。
本年は戦後80年の節目にあたり、「原爆被災者が語る平和とは」をテーマに、千葉ワイズメンズクラブ会員の青木清子氏による講演が行われた。
横浜YMCAでは、2月11日を「平和を求めの日」と位置づけ、毎年ピースフォーラム(会員大会)を開催している。これはYMCAの理念に基づき、戦争や暴力の歴史を振り返り、平和実現に向けた対話と行動の機会とすることを目的としている。
- ・ワイズメンズクラブかながわ部富士山例会(兵藤部長)
当初計画していた1泊2日の富士山例会について検討した結果、三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジにおいて、5月16日(土)に日帰り開催とする提案があり、承認された。
- ・各クラブ報告
前回協議会以降の各クラブの活動につき報告があった。
- ・その他
横浜YMCA, 同ユースリーダー、横浜ワイズメンズクラブ等による「横浜YMCAキャンプソングの集い」が紹介された。
- ・次回第110回 日時:2026年6月2日(火)
19:00-20:30(予定)
場所:横浜中央YMCA 606号室(予定)
担当:横浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブ

※閉会后、ワイズ有志で懇親会を開催した。



《TKB便り》 2025年度を振り返って

TKBのカードづくりを始めてから10年以上がたちます。最初は、東日本大震災後、元メンバーの林理子さんが福島の前町教会付属こども園へ誕生カードを送っておられたと思います。その後、現在の宮城県山元町の高齢者施設「みやま荘」と「つばめの杜保育所」へTKB皆で送り続けてきました。林理子さんがリタイヤされてからは、田園都筑教会の林ひろ子さん折り紙を担当して下さっています。25年度は、体調を崩されたメンバーが多く、綱渡り状態でしたが、かわいい折り紙に励まされ、続けてくることができました。

次年度も、受け取ってくれる子どもたちやお年寄りの笑顔を思い浮かべながら励みたいと思っています。(今城宏子 記)

※3月のカードは日本からいなくなったパンダを懐かしんで…

2月11日(水・祝)に埼玉YMCA所沢センターにて「第42回東日本YMCA水泳交歓会」が開催され、横浜北YMCAから15名の子どもたちが参加しました。

今年度は、埼玉YMCAでの開催となり、昨年度実施した東京YMCAとは異なる会場での大会となりましたが、参加した子どもは日頃の練習の成果を発揮し、それぞれの目標に向かって力いっぱい泳ぎました。

今回の大会には、初めて水泳大会に参加する子どもも参加しており、会場の雰囲気緊張する様子も見られました。しかし、経験のある子どもや年上の子どもたちが声を掛け合いながらサポートする姿が見られ、互いに励まし合いながらレースに臨むことができました。YMCAらしい温かい雰囲気の中で、一人ひとりが自分の力を発揮することができた大会となりました。

競技面でも素晴らしい成果を収めることができ、出場したリレー種目はすべて入賞するという好成績を残しました。個人種目においても多くのメンバーが入賞を果たし、日頃の練習の積み重ねが結果として表れた大会となりました。

また、レースの合間には仲間の泳ぎを一生懸命に応援する姿が多く見られ、チームとしての一体感や仲間を思いやる気持ちを感じられる場面が印象的でした。競技だけでなく、仲間と共に挑戦し、喜びや達成感を分かち合うことができたことも、この交歓会の大きな学びとなりました。

今後も子どもたち一人ひとりが目標に向かって挑戦し続けられるよう、日々の活動を大切にしていきたいと思えます。次の大会やプログラムでも、子どもたちのさらなる成長が見られることを楽しみにしています。



《例会報告》

3月度事務例会

今城 宏子 記

日時:2026年3月10日(火)17:40~19:00

場所:夢カフェ

出席:今城T・H、坂口、鈴木K・S

(Zoom) 大野、辻Ta・Ts、森山

1. 開会点鐘 坂口会長

2. 会長挨拶 //

3. 協議事項

1) つづきクラブ設立20周年記念会案について

プログラム案、ゲスト・ご案内先・ご案内文案等について協議を行った。

タイムスケジュールの確認も行った。

2) ウクライナ避難民支援の件

大野さんからの提案に基づいてクラブメンバーが集めた日用品等を3月8日(日)坂口会長と大野さんがウクライナのご家族に引き渡したことが報告された。

3) 2026年度ボランティア保険について

2026年4月~2027年3月分を申し込む。

(担当:坂口会長)

4. 今後のクラブ行事予定

1) 次期会長・部役員研修会:3月14日(土)~15日(日)

@東山荘 出席:今城T、坂口

2) TKBカード作り(水)3月18日 13:30~ @夢カフェ

3) 3月本例会:3月27日(金)17:30~10:30

@夢カフェ

卓話は行わず、お弁当を頂きながら今後の課題等について、忌憚なく話し合うこととした。

4) 4月事務例会:4月14日(火)17:30~ @夢カフェ

5) 4月本例会:4月24日(金)17:30~ @かけはし都筑

卓話:田中博之氏による第二編、11月例会続編

テーマ:「今、そしてこれからの私たち」

6) かながわ部移動例会

当初計画の「富士山例会」は、参加人数、費用面等で実施困難と判断されたため行わず、代わりに5月16日(土)に三浦YMCAグローバルエコヴィレッジへの日帰りとし、バーベキュー、スポーツ、YMCAユースとの交流等の日帰りとした。富士山例会は行わない。

7) 5月本例会:

5月23日(土)に行われる北ワイ交流会に先立ち、16:00~18:00に北YMCA2階205号室で実施。

8) Y-Y's懇親会:5月23日(土)8:30~20:30

場所: 菊名「花の舞」

参加予定者:北Y職員、北Y運営委員、つるみクラブ、つづきクラブ

5. YMCA・部・他クラブ行事

1) Y-Y's協議会報告:坂口会長

2) 横浜クラブ例会に鈴木S、今城T両ワイズが出席。

6. 連絡事項

東日本区大会:6月6日(土)石巻

出席予定:坂口、鈴木S、今城T・H

大会後に山元町訪問を検討中。

7. 閉会点鐘 坂口会長

※終了後、有志にて会食。

《お便り》 当クラブでは、東日本大震災直後より、宮城県山元町の高齢者施設と保育所との繋がりを続けて参りました。コロナ前は、お訪ねして親しく交流を図っていましたが、現在は、毎月お誕生日を迎える方がたに、手作りのバースデーカードを送り続けています。 発災15周年を迎える今月、両施設に以下のメッセージを送りました。

2026年3月11日

15回目の3.11を迎えて

みやま荘の皆様
つばめの杜保育所の皆様

東日本大震災から早くも15年がたちました。亡くなられた方々へ哀悼の意を表し、現在も復興に取り組む皆様に寄り添い、これまで築いてきた絆を大切にしながら、今後も皆様と共に歩み続ける決意です。私たちは横浜に住んでいますが、この15年皆様との親交をとおして多少なりとも東日本大震災がもたらした多くのことに想いをいたすことができ感謝しております。15年目という節目の大切な日にひとことメッセージをクラブの有志とともにお伝えさせていただきます。(東日本大震災支援担当・辻 剛)

2011年3月11日の未曾有の災害により、貴施設や地域のみなさまが経験されたご苦労や悲しみは、計り知れないものがあつたことと拝察いたします。そのような中にあつても、子どもたちや高齢者の方々の生活と安心を守るため、日々尽力されてこられた皆様の歩みに深い敬意を表します。

これからも、みやま荘ならびにつばめの杜保育所が、地域の方々にとって温かい支えの場として益々発展されますことをお祈り申し上げます。微力ではありますが、皆様のご活動を心より応援しております。(会長・坂口直樹)

”3.11”から15年が経ちました。しかし私たちは、”3.11”を決して忘れません。これからも「つばめの杜」の皆さまと「みやま荘」の皆さまを覚え、安全で平和な社会をめざして、活動続ける覚悟であります。」(次期会長・鈴木茂、鈴木恭子)

東日本大震災から15年が経過しました。皆様の絶え間ないご努力により、地域の復興は大いに進んだこととは思いますが、皆様のお心の中の耐え難い記憶は決して消し去ることはないものと思ひます。私たちも、皆様の思いをできる限り心にとどめ、皆様の友として、仲間として、真の復興に向けてご一緒に進んでまいることをお約束します。(直前会長・今城高之、今城宏子)

(以上)

追記 1:

コロナ以来御地への訪問が途絶えてしまいました。この度、私たちが所属しているワイズメンズクラブの全国大会が石巻で開催されます。その帰途、久しぶりに山元町を訪問させていただければと考えております。まだ細かいスケジュールは決まっておりませんが、訪問日は6月7日(日)の午後になると思ひます。訪問予定者は、坂口直樹(会長)、鈴木茂(次期会長)、今城高之(直前会長)、今城宏子(TKB)の4氏です。

当日は(日)で皆様お休みだと思ひます。特につばめの杜保育所は職員の皆様もお休みだと思ひます。ご無理のない範囲で対応を検討していただければ幸いです。ご連絡をお待ちしております。

追記 2:

皆様に毎月送らせていただいているお誕生日カード作りは引き続きTKB(つづきの可愛いばあちゃんず)がおこないたいと思ひています。つきましては、4月以降のそれぞれの人数を教えてくださいたいと思ひます。次週16日(月)までにお知らせいただければ幸いです。

以上2件よろしくお願ひいたします。

《研修会報告》

3月14,15両日、御殿場の東山荘で東日本区の次期会長・部役員研修会が開催され、当クラブより坂口会長(次期部書記)、今城次期会長(次期部国際・交流主査)が参加しました。部LT委員が主導する研修会には、東日本区各部所属の各クラブより、会長、役員並びに東日本区役員、部役員等他60余名が参加して、熱心な学びと討議の時間が持たれました。山下真次期部長が掲げる理事主題は「挑戦なくして進化なし」～challenge～で、特に「ユースエンパワーメント」と「改革と組織の見直し」が実行すべき項目として挙げられました。

また、当クラブが所属する「かながわ部」の佐藤節子次期部長は、部長主題として「一緒にワイズの未来を輝かせましょう」～今を大切に、常に前進～を掲げました。「温もりのある居心地の良い場所作り、時代のニーズに合わせた環境作りを通し自ら変化していく」ことを活動方針としています。全体討議、分科会何れにおいても、ほとんどのクラブ代表が強調した喫緊の課題は“会員増強”で会員減少が顕著な昨今の状況を反映したことが明らかでした。次年度は、集中的に会員増強に絞った活動を行うとした某クラブ代表の言が印象的でした。

(今城T 記)

“To acknowledge the duty that accompanies every right”

～トピックス あれこれ～

《横浜YMCAキャンプソングの集い》3月6日(金)、横浜YMCA会のチャペルで「横浜YMCAキャンプソングの集い」

が主催されました。横浜クラブの呼びかけで、「横浜YMCAキャンプソングの集い実行委員会」が組織され、「横浜YMCAユースリーダーギター会」も参加し、彼らの伴奏に合わせ、たくさんのキャンプソングをみんなで歌いました。実行委員の一人で埼玉クラブの衣笠さんや自らもキャンプソングを作詞・作曲した浅羽さんも参加して、比較的新しい歌を中心にキャンプソングの数々を歌いました。何時までも歌い継がれる古い歌や、近年、キャンプで大いにヒットした曲まで20曲ほどの歌を、時には“振り”をつけて楽しみました。開催案内に書かれていた、YMCAのキャンプソングはYMCAの「聞こえるロゴ」という言葉は的を得たものと思われま



歌い楽しむ交流の場として続けて行こうと約束し散会となりました。

《墓碑銘》「ギセンさん」の名で大勢の人たちから愛され、慕われてこられた田中義宣(ヨシノブ)さんが昨年9月93歳で天に召されました。1932年、北海道札幌で誕生され、学生時代を山口で過ごされ、山口大学の学ワイに参加、卒業後東京YMCAに奉職されます。当k表YMCAで10年間、その後YMCA同盟並びに各地のYMCAで勤務され、1992年に大阪YMCAの総主事に就任されます。YMCA退職後は鎌倉に移転された後も様々な、地域活動、国際活動に参加されました。1999年からは鎌倉ワイズメンズクラブに参加され、天に召されるまでの26年間をワイズとして活躍されました。去る3月7日、鎌倉YMCA、鎌倉ワイズクラブの呼びかけで開催された「故田中義宣さん記念会」には当クラブより鈴木S、今城T両ワイズが参加し故人を偲びました。(T.I.記)

《埋め草》～ささやかなる決心～
去る3月3日がお雛様以外でどんな日だったかご存じだったでしょうか。実は、同日夜、横浜では「皆既月食」が見えることになっていたのです。太陽と月の間に地球が割って入る現象です。ただ生憎、その日は朝から雨模様、横浜でその天体ショーを見ることができなくなりました。そこで、横浜で見ることができる次の皆既月食は何時かと調べてみました。結論を言えば、横浜で見ることができる次の皆既月食は、2029年1月1日、それも年が変わった直後ということ。今から、約2年と9カ月後です。そこで、筆者は、あることを自らに課すことにしました。即ち、2028年12月31日大晦日の夜、ジルバスターコンサートをTVで観、宏子と新年の挨拶を交わし、ベランダに出て皆既月食を“そこそこ元気”で見よう！と。(T.I.記)



鎌倉恩寵教会での記念会出席者(上)と鎌倉YMCAにおける懇親会の風景A(左)

▽我々のクラブは、会員16名を擁し、東日本区の中でも上位を占めています。現実にはメンバーの多くが健康上の問題を抱えており、例会出席率は低迷しています。一日も早く皆の健康が戻り、フルメンバーの例会が開催できるような切に祈ります。▽わがクラブは、メンバーの平均年齢において、東日本区51クラブ中第2位のことで、自慢にはなりません。ありがたいことですが、朝晩はまだ寒く、これにまじりながら、桜の便りが聞かれるようになります。暖かくなれば、あれもやりたい、これも進めたいと思うのは編集子だけではないでしょう。残り年度をしっかりと過ごし、7月から始まる新年への助走になりたいと思ふのは、編集子が次期部長に予定されているからでしょうか。(編集後記)

“To acknowledge the duty that accompanies every right”